

焼酎日記

一杯目

薩摩焼酎!?

「ここで、焼酎飲んでみてよ!」
と、飛び込んだ居酒屋の大将
に勧められて「どれどれ!」と
口にしたのが「南之方」(みな
んかた)。

これがまた…私の好みを知っ
てるんじゃないの?と、照れそ
うになる。

ピターッ!とハマってしまった。
とにかく、味わい深い、の一言に
尽きる。

「深い」焼酎って?と思う。
単に好みではなく、音楽に例
えれば、クラシックコンサート
を初めて聴きに行くO.Lさん
も、クラシック命の大人も、そ
の音色が響いた途端に心を魅
了される「充実感」と「質の良
さ」、それを表現する「基礎」
をしっかりと兼ね備えている、
つてことなのだ。

「ほら!薩摩焼酎って書いてあ
るがね」と大将に言われ裏ラ
ベルを見ると、気になる癒し系
のマーク(?)。正体は「くろちよ



ココ



か」(黒千代香)。昔からある鹿

児島の酒器。「薩摩焼酎とは…

鹿児島で育てて収穫したサツマ

イモと鹿児島の水、そして鹿児

島で焼酎を造り、瓶に詰める」

そうだ。このマークはお墨付き

のしるしで、「薩摩焼酎」って

堂々と言えるのは、この厳しい

条件を満たしているものだけら

しい。

これが音楽でいう、基礎であり、

質の高さなのか…。「こういうの

を地理的表示って言って、世界

で「薩摩焼酎」といえば本物の

証なんだよ」と、大将は誇ら

しげに語る。

野菜とコーラーゲンたっぷりの店

自慢「とり団子鍋」に、こいこい

深い「南之方」のお湯割り…。

「本物」。それは、心が豊かにな

るものなんですね。

Natou